

地域の人と
触れ合ってわかる
木頭の良さ



You surely meet bricoleur.

木頭インターンシップ2016



【はじめに】

明治学院大学から3人の女性が、2週間程インターンシップ生として木頭に来られていた。その受け入れ先として、私も関わらせていただいた。インターン生が来られるにあたり、私は次のようなことを行った。

〈受け入れ先としての事前準備〉

- ・インターン生の体験プログラム作り
 - ・インターン生との打ち合わせ
 - ・宿泊先である交流センターの整備
 - ・木頭について学ぶ
- 〈インターン中の関わり〉
- ・木頭各所案内
 - ・体験プログラム活動場所への案内と一緒に活動
 - ・体験プログラムの調整とその変更などに伴う準備
 - ・直接、地域の方のお話を聞くことができる場作り
- 〈今後のインターン受け入れ先として〉
- ・新しい体験プログラムの発掘
 - ・学生の「木頭でこんなことをしてみたい」という声に出来る限り対応する
- ⇒事前に希望される活動だけではなく実際に木頭へ来てみて感じたことも含め

【振り返り】

・少ないインターン期間のため、様々なことを体験してもらいたいとプログラムをハー

ドスケジュールで組んでしまった。しかし、木沢のゲストハウス杉の子に行った時に、綺麗な川で泳いだり、初めての縁側でくつろいでそのまま寝てしまったりと、ゆったりとした時間を過ごすことができた。そのため、彼女たちは気分転換できたようだった。「木頭で体を動かす」体験だけではなく、「木頭で体を休める」体験もできるプログラムを作る必要がある。

- ・実際にインターン生が来られてから、〇〇がなかったり・〇〇が壊れていたりなど、事前準備がしっかりとできていなかった。バタバタとしてしまい迷惑をかけてしまったことが反省点である。
- ・体験活動をしながらだと、地域の方とより深い交流ができると実感した。また、木頭で、地域外の団体や学生の方々と交流できたのも良かった。
- ・私自身がまだまだ木頭を知らないのに、案内を引き受けて大丈夫だろうかという不安があった。しかし、知っていることは話をし、知らないことは彼女たちと一緒に地域の方の所に話を伺いに行った。学んで知っていることを自分の言葉で伝えることで、より深い理解につながったと思う。また、私が木頭に来て4ヶ月と少し経つ日々の暮らしで、何を学んでおり何をまだ知らないかも整理することができた。

・小林佳奈/地域マネージャー
2016年の4月から木頭地区で、地域おこし協力隊をしています小林佳奈と申します。私には、協力隊活動の柱として、4つのプロジェクトがあります。この冊子は、プロジェクトの1つである「インターンシップ生の案内」についてをまとめたものです。是非、ご覧下さい。

・玄番隆行/ZiVASANプロジェクト
2011年からインターンシップで来られた方々に那賀町(特に那賀奥エリア)をご案内してきました。それが移住や地域と都市との橋渡しになればと夢想しています。

木頭インターンシッププログラムKIP
(2016/8/4~16)
明治学院大学国際学部
Nishikawa,Nisiyama,Mori 報告抜粋

Nishikawa 木頭1日目

品川を21時半に出発し、バスに揺られること約9時間。徳島駅に到着しました。徳島駅は想像よりも大きく、駅周辺もたくさんのお店がありました。ダイヤが今年の四月で改訂していた様で、乗る予定だったバスが来ず、二時間遅れのバスに…。そんなハプニングがありつつも、無事木頭にたどり着きました。徳島駅とはうってかわって、回りは緑に溢れています。

バス到着後、案内して下さる小林さんをメンバー三人で待っていたのですが、その間少し驚くことができました。それはいろいろな人が声をかけてくれたことです。「何処から来たの?」「何処に行くの?大丈夫?」とバスの運転手さんや、同じバスに乗っていたおばあさんが話しかけてくれ、小学生も元気に挨拶をしてくれました。

宿泊施設の交流センターについたあとは、玄番さんが公民館にむかう傍ら、木頭のあちこちを案内してくれました。それまでただの自然豊かな風景だったのが、玄番さんの説明を聞くことによって、それぞれの場所が物語をもち、また違った場所に見えていきます。約二週間の滞在で、どれだけ木頭について知っていけるのか楽しみです。

夜は地域のみなさんとお食事会でした。たくさんのお料理のおいしさに感激!中には生まれてはじめて食べる鹿肉やあめごまがありました。美味しい料理を囲みながらみなさんとお話するのはとてもたのしい時間でした。こどもたちとは、一部の子としか今日は話せなかったのが、早くたくさん話して仲良くなっていきたいです。

帰り道は、今まで見たことのないほどの満点の星空に感動しました。携帯のカメラでは写せないのがとても残念ですが、その分しっかりと見ていきたいと思えます。

明日は木頭散策やコミュニティカフェ見学の予定です。今日は早く寝て、長旅の疲れ

をしっかりとして、明日に備えます。

2016/08/05 21:13

Mori木頭2日目

今日はまず、8時過ぎに役所へ。朝礼に参加し挨拶をした後、くるくへ出発しました。



くるくに着き、田中さんの話を聞いて、周辺の散策へ出発しました。田中さんは知識がとても豊富な方で、色々な話をさせていただきました。散策では柚子の木の近くを通り、山道を歩いたり川辺を歩いたりしました。歩いている際に辺りの屋号を教えてくださいました。話し言葉で使っていたため、漢字

などの字はないそうです。昔は屋号で呼び合っていたと仰っていて、今とは違った習慣だと感じました。

山道を通ると、天然の山葵がありました。他にも道中には柿の木や栗の木、様々な種類の竹、山ではミョウガやタラの木など自然の食材が溢れていました。田中義雄さんの話では、竹の種類によって用途を使い分けると仰っていました。食材として1番美味しい竹はハチクダだそうです。畑ではサツマイモやトウモロコシ、ナスなどがなっていて、いくつかナスを頂きました。



道中では鶏頭がたくさん咲いていて、収穫

をしていました。色がとても鮮やかな赤色でとても綺麗でした。触ってみると思っていたよりも固く、実際に隙間がない硬い花の方が出荷の際に崩れることがないとおっしゃっていました。



山道を通り、お昼頃くるくへ戻ってきました。お昼ご飯は鹿肉のコロッケをメインとした定食でした。お味噌汁にすりおろしの柚子が入れており、香りがとても良く美味しかったです。榊野瑞恵さんが「くるく」のオーナーさんで、他にも柚冬庵という柚子の加工会社を営まれています。食事の後にお話をお伺いしたところ、くるくを営むことで木頭ゆずを広めたいというのはもちろんのこと、周辺では一人暮らしの方も多いため、台風が来た際の一時避難場所となれば安心だということも仰っていました。また、木頭ゆずを広めることで販売促進し、その結果従業員の増加へとつなげることが仕事をする上での思いだと仰ってしまし

た。



お話をお伺いした後、12日に小林さんと私たちインターン生3人でくるくで就業体験させていただくため、その話し合いもしました。当日に出す料理やデザートなども決まり、とても楽しみです。

交流センターに帰ってからは、木頭に来て初の自炊をしました。夜ご飯には頂いた夏野菜を使ってカレー、焼きナスや浅漬けをみんなで協力して作りました。とても美味しかったです。明日も朝が早いので、遅れないように準備したいと思います。

Nishikawa 木頭三日目

今日は早めに起きお弁当を作ってバスで結遊館へ。そこからひょうご自然教室のみなさんと合流して、堰作りに向かいました。川底を掘ってその石を積み上げ、堰を作っ

ていきます。この作業は想像以上に腕と腰にきました。途中、おららの炭小屋の方がトビとツルの使い方を教えてくださいました。実際に使って丸太を転がしてみ、昨日田中さんとのお話の中で出てきた「力以上に要領が大事」という言葉の意味を身をもって理解しました。丸太を転がすのも、どこにトビを刺し、どのように力を入れるのかで、動かしやすさが全く違いました。要領がわかっているれば、より少ない力や時間で効率的に仕事ができます。力勝負の仕事に見えても、実は知恵が重要なのだと感じました。



全員で力を合わせた甲斐あって、筏を浮かべられるほど水位をあげることに成功。試しに乗せてもらった筏は、とても快適でした。

午後からは、結遊館に戻って、石臼できな粉作り体験。中村さんご夫妻がいらっしや

り、レクチャーしてくださいました。

大豆を炒って、石臼でひく。言葉でいうと簡単ですが、作業は楽なものではありませんでした。



大豆を炒る際は、焦げないようにひたすらかき混ぜ続けなければいけません。鍋の前は非常に暑く、かき混ぜ役の人は暑さに耐えながら混ぜ、周りの人たちは見守りつつ団扇で仰ぐという協力プレー。



また、石臼で挽く作業は想像以上に力が要るものでした。腕先だけでまわすのでは駄目で、からだ全体を使って回す必要があるのだとわかりました。

作業を通じて感じたのは、石臼がコミュニケーションツールになるということ。小学生から80代の方までが集まって、石臼を囲んで、皆で中村さんご夫妻のお話を聞き、誰かが大豆を挽いて、コミュニケーションが図れる。

植木さんが最初に仰っていたように、石臼が異なる世代をつなぐ道具になると、和やかな雰囲気の中思いました。



みんなで作ったきな粉は、普段のものより芳ばしくて、大豆本来の味を感じました。

木頭に来てから三日間、毎日星を見に外に出ています。今日は、白鳥座や北斗七星、夏の大三角形を見つけました。流れ星も昨日から四つほど見かけています。地面に寝

転んで見る星空は、横浜では決して味わえないもの。

木頭に住んでいる人たちには、これが当たり前なのかと思うと羨ましくなりました。

2016/08/08 00:53

Mori 木頭4日目

今日はお休みの日だったので、いつもより遅く起床しました。しかし木頭に来てからの習慣からか、朝6時半頃に一度目覚め、また眠りに。朝食兼昼食は昨日の残りご飯を炒飯にして頂きました。

お昼ご飯を食べ、みんなで川へ行こうと話していたのですが、のんびりしていたらまたまた眠りにつき…

起きた頃には3時になっており、中山秋男さん(秋兄)のところへ向かう準備をしました。

小林さんが迎えに来てくださり、秋兄のところへ着いて始めに野菜収穫!畑に新鮮な野菜がたくさんあり、特にナスは艶がすごく綺麗でした。秋兄がお肉を用意してくださ



り、野菜と共にBBQをしました。
木頭に来てから久しぶりのお肉だったので、とても幸せでした。



途中で山の上の方まで登り、草で作ったパンダの아트を見ました。木頭の方々は本当に器用な方が多いと日々感じています。



帰りには木頭祭りの提灯が綺麗に並んで見えました。

交流センターに帰って来てからは、日課となっている星を地面に寝っ転がって見ました。今日は9時頃から見始め、半には切り上げようと言っていたのですが…「あと1個流れ星を見たら家に入ろう!」というのを繰り返し、気づけば3時間が経っていました。今日の収穫は新たにカシオペア座とこぐま座を覚えたことです。みんなで1日1個ずつ星座を覚えよう、これからの楽しみがまた1つ増えました。

ペルセウス流星群が見られる12日には、秋兄が山へ星を見に連れて行ってってくれるかもしれないので、とても楽しみです。

2016/08/09 00:16
Nishiyama 木頭5日目

本日は午前中に木頭の図書館に伺いました。そして、館長の大沢さんにお話を聞くことができました。



木頭図書館の歴史は、1975年に始まったそうです。アメリカではどんなに小さな村でも図書館を中心にしてコミュニティが作られているということに感銘を受けたそうです。最初のうちは、法務局のあった建物を利用して週に1回図書館を開いていたそうです。その16年後の1991年8月1日、木頭に正式な図書館が作られました。私は今まで図書館というと、本を読んだり何かを調べたりするために利用するだけの施設だと思っていました。しかし、今日お話を聞いたことによって、図書館が様々な年齢、性別、国籍の人が集うコミュニティの場になっているのだということに気づきました。

そして、そのようなコミュニティの場であるからこそ、どんな小さい村でも図書館の存在は必要不可欠なのだと思いました。

館長さんのお話を聞いた後にはお話し玉手箱のみなさんの紙芝居や、絵本が始まりました。この会も、住んでいる集落が違う子供達がこれだけ集まるという役割を果たしている図書館の存在は大きいことがわかりました。



午後は細貝さんの案内で散策を行いました。私たちの神社や吊り橋が見たいというリクエストに答えてくださり、たくさん場所へ連れて行ってくださいました。



神社の中には道なき道を進んで行かなければいけないような場所もあり、大変でした。それでも目的地に着けば、神聖な雰囲気や木々に囲まれ、達成感も感じました。途中細貝さんが鹿の頭の骨も見せてくれました。



そして、集落の中には現在1人しか住んでいない場所があることも知りました。今では中心的な集落から過疎化した集落に行くまでの林道もきちんと整備されており、車で行き来がしやすくなっています。しかし、山を越えなければいけなかった頃の事を思うといろいろ考えさせられました。



夜は交流センターで集まりをしました。料理はどれも美味しかったです。夕食の時間の中で1番印象に残っていることは、山の生活は生きるための基本に一番近いという言葉です。それだけ都会に住んでいては知ることができないような、知恵・知識をたくさん持っているのだと思いました。

身の回りの自然にあるものから自分たちに必要な物を作り上げ、昔からある道具で生活をする。

私たち、人間の最初の基本を大切にしなければいけないと思います。

2016/08/10 01:16

Nishikawa 木頭六日目

今日は一日太布庵へ。

午前中はまず大沢さんから太布の歴史について伺いました。



太布とは木頭に古くから伝わる古代布です。万葉集や源氏物語などの古文の中にも「たえ」として出てきており、そのことから、いかに重要なものであったかがわかります。木綿等の普及により、それまで各地で織られていた太布も、今では木頭だけのものとなりました。

普通、綿製品などは作られた時点で完成形で、使えば使うほど磨耗していきます。しかし、太布は使用していくことで少しずつ柔らかくなり、肌に馴染んでいき、完成されていきます。

新しいほど良い、という現代の価値観とは真逆の太布。長い年月をかけ、味が出て、自分にぴったりのものになっていく、というのは本革やアンティークものと似ているなと感じました。

午後からは実際に紡績(績紡)の作業体験をさせていただきました。繊維を裂いていき、長い一本の紐状にしていきます。まるでさけるチーズみたいで面白い、なんて思ったのも束の間。大苦戦しました。均一の太さにするのが難しく、調整しようとする、ぶつぶつと切れてしまいます。おばあちゃんたちが裂いたものと比べるとその差は一目瞭然。

おばあちゃんたちのものは太さが均一で長い一本の紐のようになっているのに対し、私のものは太さもバラバラで短く、所々二股に分かれてしまっていました。熟練の技を要する作業だなと痛感。



裂いたあとは、それを績んで一本の糸にしていきます。こちらはひたすら根気のいる作業。同じ体制で行うため、肩や腰も痛くなります。裂く工程が上手いかなかったため、余計に縊るのが大変でした。ちなみに、このより方を覚えておけば、縄や他のものでも応用できるそう。しっかり覚えておきたいです。

太布庵では、木頭に伝わる太布を後世に伝えようと活動している方々がいらっやいます。しかし今日、担い手の高齢化や後継者不足の問題を抱えています。楮から原料をとりだしても、それを布にするだけのメンバーが足りないそうです。太布も木頭に残された、自給自足の生活の知恵の一つ。課題はたくさんありますが、これを途絶えさせないということは、木頭全体にとって大きな意味があるように感じました。

夜は盆踊りの練習会に参加。大分踊れるようになりました。浴衣も着せて頂けるそうなので、お祭り本番が楽しみです。

2016/08/10 23:02
Nishiyama 木頭7日目

今日で木頭にきて1週間が経ちました。そんな7日目の今日は木沢に伺いました。木沢の役所で桑高さんと合流し、八幡神社、鹿肉加工所、四季美谷温泉などへ行きました。

八幡神社農村舞台のお祭りでは約300人の人たちがこの場所に集まるようです。これだけ多くの人たちが集うようなお祭りは、コミュニティの場としてとても必要で、これから先も残していくべき機会だと思いました。そして、それには元地域おこし協力隊の人たちや若い人たちが運営していく心があるからこそ受け継がれているのだと思いました。



その後は四季美谷温泉でお昼ご飯を食べました。私が食べたものは鹿フライでした。鹿肉はおもったよりも臭みはなく、美味しかったです。やぎアイスは勇気が出なくて食べれませんでした。こっちにいる間に1度は食べてみたいと思います。



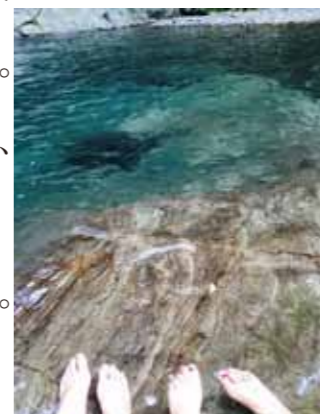
その後ようやく杉の子へ。杉の子は古民家を約3年間かけて、芝浦工業大学の学生たちと一緒にリメイクをしたそうです。そして、地域おこしの方が新しくゲストハウスなどを開くことは本当に難しいそうです。それでも杉の子を開けたことは桑高さんのいままでの経歴の賜物だと思いました。



杉の子の中身はとても綺麗でした。古民家の雰囲気そのままに感じられるような良い雰囲気でした。囲炉裏や五右衛門風呂なども初めて見たり、お風呂を沸かすための薪割りもはじめてやりました。とても力のいる仕事で、当たる場所も最初のうちは定まりませんでした。



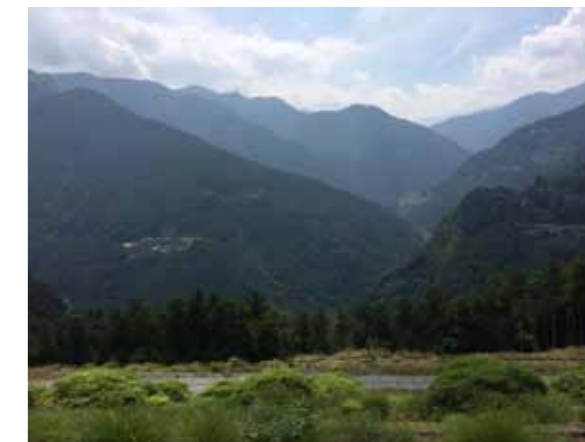
その後は川へ。水がとても透き通っていて綺麗でした。洋服だったにも関わらず、全身まですべて水に入り、童心に戻ったかのような気分でした。このような遊ぶ場所が周りにあれば、公園など遊ぶところがなくても飽きないで1日中いれるなと思いました。



夕食はえみこさんが作ってくれました。秋刀魚寿司、そば米の汁物などとても美味しかったです。



最後に、山の上から撮った写真です。小さく集落がみえます。



2016/08/12 00:04
Nshikawa 木頭八日目

今日は朝からえみちゃんの作ってくれたご馳走。昨日のお昼から美味しいもの尽くしで、ついつい食べ過ぎに。帰るころには丸くなってしまいそうです。





昨日は遅くまで星を見に行っていたため、ごはんを食べたあとも眠気が覚めず。干すために縁側に出された布団の上で、二度寝をしてしまいました。虫や鳥の声を聞きながら寝るのはびっくりするくらい気持ちよく、目覚めたときに目の前にひろがる景色になんとも言えない幸福感を感じました。

こちらに来てから、毎日が濃く、楽しいけれどすこし慌ただしい日々。美味しいものを食べて、縁側でお昼寝をして、という、「何もしない」贅沢な午前中を過ごせました。

自然と人の集まる縁側。皆で同じ景色を見てのんびりと話す。石白のときと同じように、縁側は人と人をつなぐコミュニケーションを生み出す空間なのかもと思いました。

川で遊んで、木登りをして、薪をわって、五右衛門風呂に入って、美味しいものを食べて、皆で話して笑って、星を見て…。杉の

子での一日は、まるで小学生にでも戻ったような時間でした。むしろ小学生のときよりも、遊んで、はしゃいだ気がします。

杉の子は、お風呂やごはん、お昼寝のような日常的なことがこんなに贅沢で幸せなことだったんだ、と思い出させてくれました。いつかまた絶対行きたいと思います。



お昼はまたまたえみちゃん作のお弁当。えみちゃんをつくるごはんはどれも美味しく、食べていると幸せになります。また、えみちゃんをつくる料理からは、気遣いが溢れていて、えみちゃんの人柄がにじみ出ています。いつかえみちゃんみたいな料理をつくれるようになりたいです。

午後からはくるくで明日のカフェメニューのケーキ作りと店内の飾りつけ。久しぶりのお菓子作りは、上手くできるか不安もありましたが、楽しめました。明日みなさんからおいしいの一声が頂ければと思います。

ちなみに明日12日はペルセウス座流星群の観測日です。なので、飾りつけはそれを意識したものなので、ぜひ見てみてくだ

さいね。私たちもくるくのあと、あきにいと山に見に行く予定なので、今からわくわくしています。今日の夜ご飯は桑高さんから頂いたスイカ。昨晚から食べたい食べたいと言っていたら、本当に買ってきてくださいました。おやつにアイスまで差し入れてくれて、感謝です。ごちそうさまでした。

2016/08/12 22:49

Mori 木頭9日目



今日はくるくでの就業体験をわたしたちインターン生と小林さんで11時半から5時まで行いました。午前9時ごろからくるくでランチの用意スタート。玄番さんにも手伝っていただきながら、飾り付けと料理の準備を分担して行いました。



ランチメニューはアメゴバーガー、サラダ、スープでした。スープはかぼちゃのスープとジャガイモのスープを作りました。



最初は量が足りない、味に何か足りない、などと言いながらやっていましたが、なんとかおいしく作ることが出来たと思います。

ランチが終わり、わたしたちも昼食の時間に。アメゴバーガーに入っている柚子味噌がバーガーにとっても合っていて、すごく美味しかったです。この美味しさで500円はとてもリーズナブルな値段だと思いました。



ランチの時間には、今までお世話になったみなさんが来てくださいました。2時からカフェメニューで営業をしました。カフェ開始の時間が過ぎてもあまり人が来ず、もう少し宣伝をすべきだったか、とも思いましたが、秋兄や家族で来てくださる方々もいて、終えるまでには何食か売ることが出来ました。

普段は提供していないケーキだったので、この機会にもう少し地域の人に来てく



れたら、と思いました。デザート of 盛り付けもみんなで作ったのですが、涼しげでかつ、夏らしさを出すことが出来たかなと思います。営業終わり頃には、私たちがケーキを

頂きました。柚子のジャムがガトーショコラと相性が良く、とても美味しかったです。

今日の夜はペルセウス流星群を見に、秋兄が星のよく見えるところへ連れて行ってくれました。しかし、晴れの予定がくもりになってしまい、ブルーシートを敷いて待っても晴れず…断念して戻ってきました。残念でしたが、みんなで3時頃にまた起きて見ようと言っているの、その際に見られたらと思います。

2016/08/14 11:30

Mori木頭10日目

今日は松明作りをしました。1日かかる予定だったのですが、岩男さんや秋兄が来てくださったおかげで、午前中で終えるこ



とが出来ました。

まず始めに、ナタで木の先を尖らせる形に切りました。実際にやってみると、見ているよりも数倍難しい…何度も刃を当てないと中々思うような形になりませんでした。普段はナタを使う機会がないので、体験してみても両刃よりも片刃の方が使いやすいなど、新たな発見がありました。



次に、その切った木を使って松明の中側を徐々に詰めていきました。背が高くなると、脚立などを使って上から木づちを用いながら行いました。周りの板を増やしながらか作っていくので、紐で少しずつ固定しなければなりません。きちんと結び目の位置が揃うようにしていて、細部まで気をつけながらやっていくことが大事だと感じました。

最後は軽トラックに立てかけながら行いました。真ん中にある木を中心に、足りないところへ木を詰めていき、広がり大体同じになったところで完成しました。松明を作り上げる過程を見



て、広がっている側が上だと思っていましたが、細い先の方が上になったので少し驚きました。中心にあった木も切り落とされ、松明作りを体験しなければわからない行程がたくさんあるのだなと感じました。

完成した松明を軽トラックに乗せ、小学校まで運びました。立てたときに少し斜めになっていたのですが、しっかりと立っていたので良かったです。暑い中の作業でしたが、完成した松明を見て達成感が湧きました。普段は出来ない体験なので、木頭で経験できて良かったです。



昼食を食べた後は、ひょうご自然教室の皆さんと共に少し川へ行きました。私たちは足を水につけるぐらいだったのですが、みなさんは一本乗りを体験していました。

帰りには、植木さんがアイスを買ってくださり、暑い中のアイスは最高でした。農協に寄った時に秋兄に会ったので、夜は秋兄の

ところへ行き、ご飯を食べました。野菜もお肉もとても美味しかったです。秋兄の手作りのスプーンを見せてもらい、4つも頂きました。今の時期には作らないといい、いつも冬になると作っているそうです。専用の機械などは使わず、自分の手で道具を使いながら作っているの、全て一点ものだと言っていました。木頭の方は本当に、食材においてもモノにおいても自給自足の生活をしていると感じます。また、手先の器用な方がたくさんいらっしゃる日々感じています。

2016/08/15 00:10
Nishikawa 木頭十一日目

今朝は交流センター横のグラウンドで遊ぶ、子供たちの声で目が覚めました。お盆で皆帰省しているらしく、町にはいつもより多くの人影を見つけました。

明日、交流センターから結遊館へ移動。午前中はセンターのお掃除。なんだかすっかり我が家のようなこの場所とも明日でお別れかと思うと、本当に木頭に來てからあっという間だったと思います。



お昼は、今日もあきにいの所へ。食事の前に、念願だった、軽トラにのせてもらいました。風を感じて走るの、普通に車に乗るより気持ちがよく、見える景色もいつもと違いました。

今日はお好み焼きパーティー。デザートには木頭の柚子シャーベットをいただきました。



夜は盆踊りへ。小林さん、玄番さん、まみさんやあきにいのおかげで、浴衣を来て参加することができました。お祭りは屋台は少ないものの、活気に溢れていて、どこか懐かしい風景。地元のお祭りを思いだし、少し実家が恋しくなりました。



9時頃から花火の打ち上げが始まりました。想像以上に豪華な花火に驚き。大きな花火が上がる度

に、「おお〜!」と歓声があがっていました。



会場のあちこちから、「久しぶり!」「何してるの?」と声が聞こえてきました。皆が帰ってくる盆に行われる木頭祭り。この人たちにとって、離れてしまった人と人をつなぐ木頭祭りは、普通のお祭り以上に意味のあるもののように感じました。

2016/08/16 02:01
Mori 木頭12日目

今日の午前中は結遊館に移動するため、交流センターの掃除をしました。掃除を終えた後、北川へ向かい昼食を済まし、午後から行っていたアメゴつかみを見に行きました。

交流センターから川へ向かったのですが、アメゴつかみはすでに終了しており、小林さんと少し北川散策をしました。何度か散策へ連れて行っていただきましたが、木頭の自然や景色は何度見ても飽きることなく、毎回新しい面を見られると感じます。結遊館へ荷物を置きに行った後から土

砂降りの雨が降り始め、お祭りが始められるのか心配でしたが、無事に行うことができて安心しました。

午後3時ごろにお祭り会場となっている北川小学校へ向かいました。ひょうご自然教室の皆さんは餅つきときな粉挽きをしていました。

私たちは高知大学の学生の皆さんと共に行動し、ダッカルビとスパイシーチキンを作る手伝いをしました。高知大学の皆さんは国際茶屋というサークルで来ており、留学生の学生さんも数名いました。

チキンを調理する際も料理の得意な学生さんがアドバイスをしてくれました。留学生の方で和食屋さんで働いてい



たという方に、正しいお米のとき方を教えていただき、わたしたち日本人でも詳しく知らないことを知っている面や知識が豊富な点に驚かされました。

私たちは調理班のみなさんと行動していましたが、国際茶屋さんは灯籠作りも行っていました。

途中の空いた時間に北川小学校の昔の写真を見に…。展示コーナーの教室が設けられており、たくさんの方が見に来ていま

した。見に来ていた方たちは写真を見てとても昔を懐かしんでいて、自分の通っていた小学校が休校になるのはとても悲しいと思いました。

廊下のコメントを書くことができるホワイトボードには様々なメッセージが書いてあり、この小学校で育った人たちの思いが伝わりました。



お祭りが始まり、わたしたち3人が松明の点火をしました。火がついた瞬間も感動しましたが、だんだんと燃えて松明の背が低くなっていく過程もとても綺麗でした。岩男さんも今日のように綺麗に崩れずに燃えることはすごいことだと仰っていて、とても嬉しかったです。



盆踊りは地元の人だけでなくひょうご自然教室の方も混ざり、とても楽しく盛り上がっていました。屋台も見て回っていたのですが、運営側の方たちは初日に公民館でお会いした方々が多く、都会の大きなお祭りとは違い、本当に地域に根付いたお祭りなのだなと実感しました。



途中で柚子サイダーの一气飲み対決などがあり、子供達が盛り上がっていました。9時からは真上に花火が上がり、なかなか真上に上がるのを見ることはなかったので、とても綺麗で感動しました。

北川のお祭りは、子供たちや地域の人たちを強く感じるお祭りでした。北川小学校が休校になってしまうことは悲しいですが、このようなお祭りがあることで北川小学校で過ごしたことをそれぞれが思い出すことができるのではないかなと思いました。

【さいごに】

今回は、私にとって初めてのインターン生案内でした。彼女たちを地域の方々の方々に案内して話を伺ったり、体験活動場所へ案内したり、貴重な時間を一緒に過ごさせていただきました。今回の経験をいかして、次のインターン生の案内をより良いものにしていきます。インターンシップ期間中、たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございます。次回までに1つでも多く、木頭について知り、案内できる場を増やせればと思っています。その時は、どうぞよろしくお願いいたします。(小林佳奈)



木頭インターンシップ概要

▶地域の教育力

小学生を対象とした山村留学を1991年から実施してきた木頭村(きとうそん)。1999年には山村留学センター結遊館(ゆうゆうかん)が開館し、「おららの炭小屋」(2000年発足の炭焼きグループ)や「すよりの会」(2003年発足の北川小学校支援グループ)、「NPO法人里業ランド木頭」(2007年設立の循環型農業法人)など、地域の教育力を発揮する場と組織が形づくられてきた。

▶地域と役場との協働

さらに、地域と役場が協働して取り組んだ事業(那賀町移住交流支援センター)を契機に、より広範な地域団体との連携が生まれ、地域おこし協力隊制度の導入にもつながり、インターン学生の受入れがより円滑になってきた。

▶「学び」の循環

以上の非営利な運営が可能な条件が整ってきたことで、観光ではなく、インターンで地域を立体的に学ぶことができ、また

逆に、地域にとっても貴重な学びの機会となってきた。地域の魅力は、特産物や景観、イベントなどの観光資源だけではなく、地域で人々が暮らしの中から育んできた生活文化やコミュニティといった無形の知恵や思考(方法)の中にもあるのではないだろうか。そして、それを地域内外に「学び」として伝え、循環させることに木頭インターンシップの役割がある。

▶インターン受入れ学生数

2011年 8月	明治学院大学国際学部	学生1名
2012年 1月	京都大学地球環境学舎	院生1名
2012年 8月	明治学院大学国際学部	学生4名
2012年 8月	山梨大学教育学部	学生1名
2013年 8月	明治学院大学国際学部	学生3名
2014年 8月	明治学院大学国際学部	学生3名
2014年 8月	龍谷大学政策学部	学生3名
2014年 9月	龍谷大学政策学部	学生4名
2015年 3月	首都大学東京環境/教養	学生2名
2015年 9月	京都橘大学人間発達学部	学生1名
2016年 8月	明治学院大学国際学部	学生3名
2016年11月	デジタルハリウッド大学	学生2名
2017年 3月	デジタルハリウッド大学	学生2名

▶これまでの連携団体

- ・結遊館 yuyukan.net
- ・おららの炭小屋 olala.jp
- ・柚冬庵カフェくるく kuruku.net
- ・太布庵(阿波太布製造技法保存伝承会)
- ・奥木頭ふるさと祭実行委員会
- ・すよりの会
- ・奥木頭さとづくり協議会
- ・NPO法人里業ランド木頭
- ・(有)柚冬庵
- ・(株)きとうむら
- ・山櫻プロジェクト会
- ・(合)杉の子
- ・井本紙漉場(阿波農村舞台の会)
- ・ZiVASANプロジェクト zivasan.com

この冊子はフルカラーで
ネット公開しています。
⇒<http://zivasan.com/pdf/kip16.pdf>